【沈金師】

小関伊佐美

【現 住 所】海南市
【生　　年】大正12年

業績及び経歴

幼少の頃より、父親の小関豊橘氏より沈金の技能を習得し、通算して50年余りにわたって沈金に取り組んできた。沈金の伝統的技能の研鑽に努め、高度の技能を身につけ、永年にわたり漆器産業振興のため多大な貢献をされるとともに、漆器の加飾技術の研究と改善向上に対して大きな功績を残してきた。

沈金については、県下の漆器業界の中で一番優れた技能を修得しているといわれている。紀州漆器伝統産業会館には、代表作である額皿の鶴や色紙箱の鶴などが飾られている。雅号は豊景。現在は、硯箱、花瓶、文庫、テレホンカードなどを中心に製作している。

昭和54年には伝統的工芸品産業振興会より伝統工芸士に認定されている。また、昭和54年より紀州伝統漆器振興会会長に就任され、現在に至っている。

沈金の技法は、漆の塗面に模様を型どりして、模様のとおり沈金ノミで荒彫りし、上絵ノミで上絵をする。その後、漆を少し塗り溝の中に漆を残してふき取り、金箔をはり、押さえたり叩いたりして溝の中に入るようにし、表面をふき取る。さらに、金箔だけでなく、金粉、銀粉や顔料を使い、色彩に妙をつける。